



密着
地域
のクリニック
より

多職種連携と総合診療医によるチーム医療が、
病院から安心して送り出せる。地域医療を支える

多職種地域連携を核に、外来
と訪問診療を一体的に提供

明医研は、埼玉県さいたま市南部でハーモニークリニックとデュエット内科クリニックの2つの診療所と3つの訪問看護ステーション、ヘルパーステーション、定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所を展開する医療法人である。理事長の中根晴幸氏が、浦和(現さいたま)市立病院で地域医療支援病棟の開設・管理に従事していた際に、病院から安心して送り出せる在宅医療の受け皿の



医療法人 明医研
理事長 中根 晴幸氏

1972年慶應義塾大学医学部卒、同大研修医を経て、フランス共和国政府給費留学生としてINSERM国立研究所に留学。帰国後、81年浦和(現さいたま)市立病院内科医長、慶應義塾大学医学部客員講師等を経て、90年より浦和(現さいたま)市立病院の病診連携事業に従事し、92年よりさくらそう病棟(地域医療支援病棟)管理医師を務める。95年医療法人明医研を設立し、ハーモニークリニック院長に就任。2000年にはデュエット内科クリニックを開設し、現在に至る。

必要性を痛感し、自らその一翼を担おうと、1995年に24時間対応の訪問看護ステーションを併設する診療所を開いたのが始まりだ。その後20数年にわたり「いかに地域のニーズに応えるか」を模索し続け、多職種地域連携を核に外来と訪問診療を一体的に提供する体制を整えていった(図表1)。

「徐々に優秀な若手が集まってきて、いま、互いに良い効果を与えあってきている。誠にありがたいことです」と中根氏のコメントはあくまでも謙虚。

在宅の入口である外来を重視して、総合診療医がチームで診る

総合診療医によるチーム診療が同院の特徴の一つ。6名の常勤医を軸にチームが生まれ、2つのクリニックの外来診療と訪問診療を担う。ハーモニークリニック副院長の中井秀一氏は、どんな人も、どんな状況でも診ていくという昔ながらの町医者を目指してきた。大学病院に所属していた際に同院でチーム診療を経験し、「連携が良く質の高い在宅医療を提供しており、法人の運営理念

図表1 ● クリニック機能の特徴



図表1~3出典：明医研提供資料

図表2 ● 在宅医療の体制とカバーエリア



でもあるWARM(温かく) & RELIABLE(信頼に足る)の医療を実践できる場だと実感した」という。大学病院の総合診療医として活躍していた同法人の医局長・松林洋志氏も、「地域医療の最前線では、各科の専門医が揃っている大学病院とは違って、総合診療医としての知識や技術を幅広く活かすことができる」という。また、デュエット内科クリニック院長の大和康彦氏は家庭医・総

合診療医を志し、卒業と同時に長野の著名な研修病院に赴き、外来や在宅医療の研鑽を積んできた。「外来にもしっかりと力を入れている点が当院の魅力の一つです。在宅医療だけでなく、医学教育や研修で培ってきた外来診療の力もフルに発揮できます」と(大和氏)

医療の高度化、入院の短期化に対応すべく、同院では高度な治療に対応できる技術と設備を備える。そのため、他から紹介を受けて訪問診療からかわるケースも増えている。「ハーモニークリニックは在宅患者の約2割ががんの患者さんで、数年前と比べて緩和ケアが増えている(中井氏)といい、同院副院長の市川聡子氏も「最近では病院での抗がん剤治療と併診しながら対応するケースが増え、より早期から関わることができるようになり、患者さんの希望を叶えるお手伝いが可能になってきている」のを感じている。一方、武蔵浦和にあるデュエット内科クリニックはいわゆる「埼玉都民」が多い。大和氏は「入院の短期化で細かな退院調整が困難になるなか、当法人が紹介先として選ばれる理由の一つは、良くも悪くも退院後の調整を丸投げできる力を持った多職種連携体制があるから」(図表2)とみる。

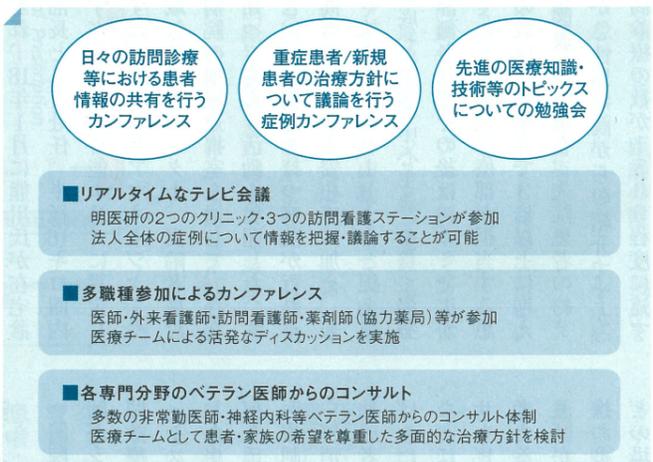
チーム診療については、「長野では24時間すべてを一人で背負う苦勞も経験したので、明医研はライフワークバランスの実現に良い環境。しかし何より、自分に足りないもの、学ぶべきことを先輩や同僚、後輩から教えてもらえることが、多科でなく内科だけでチームを組む最大のメリット(大和氏)と捉えている。また、身体や健康に関して一番に相談に

ナラティブと共感——人として信頼される医師を志す

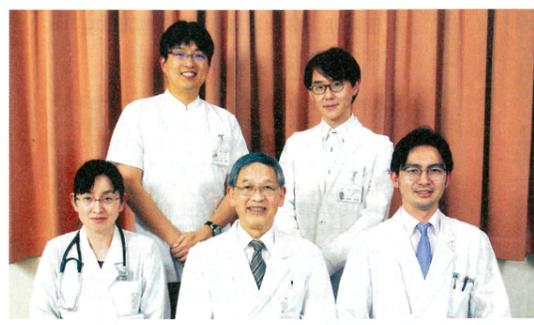
明医研では医学生や研修医を積極的に受け入れているが、そこで伝えたいこととは何か。

「生まれてから亡くなるまで、人としての歩みに伴走するかかりつけ医に求められるのは、その方を愛し、敬う心だと思います。ただし、やさしいヤブ医者であってははいけません。常に医療のスキルを磨き続けていく必要があります(市川氏)」「人間関係や生活環境などの場をしっかりと見て、症状の原因を解き明かし、解決策を導き出すこともかかりつけ医の大事な役割の一つと考えられています(中井氏)」「訪問診療においては、医者一人では何もできないという謙虚さを持ち、多職種の意見を引きだし、集約

図表3 ● チーム医療を実践するためのカンファレンス体制



法人3拠点をインターネットでつなぎ、多職種カンファレンスを頻回に実施写真提供/医療法人明医研



中根氏(中央)ほかハーモニークリニック副院長・中井秀一氏(前列右)、同副院長・市川聡子氏(前列左)、デュエット内科クリニック院長・大和康彦氏(後列左)、医療法人明医研医局長・松林洋志氏(後列右)